# 大阪府感染症発生動向調査週報 (速報) 2023年 第44週(10月30日~11月5日)

#### 今週のコメント

#### ~インフルエンザ~ 咳エチケット、手洗い、マスクの着用、ワクチン接種が重要

#### 定点把握感染症

「インフルエンザ 増加続く」

第44週の小児科・眼科定点疾患の報告数の総計は2.210例であり、前週比8.7%減であった。定点あたり報告数の第1位は感染性胃腸 炎で以下、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、咽頭結膜熱、流行性角結膜炎、手足口病の順で、定点あたり報告数はそれぞれ3.41、3.37、 3.31、0.62、0.38である。

感染性胃腸炎は前週比1%減の672例で、堺市4.63、南河内4.44、三島4.31、泉州3.90、豊能3.78であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は10%減の664例で、大阪市西部6.20、北河内4.60、大阪市南部3.94である。

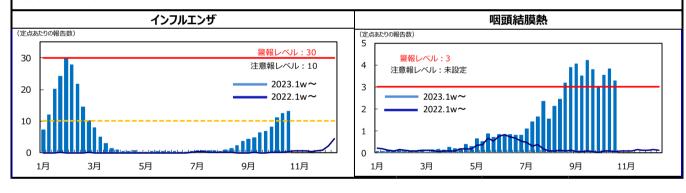
咽頭結膜熱は14%減の653例で、中河内6.05、北河内5.40、南河内4.50であった。第35週以降、10週連続で警報レベル3以上が続 いている。

流行性角結膜炎は14%減の32例で、南河内2.00、中河内1.20、大阪市北部1.00である。

手足口病は23%減の75例で、南河内1.25、大阪市北部0.50、北河内0.40であった。

インフルエンザは5%増の4,046例で、定点あたり報告数は13.27である。南河内21.21、大阪市西部19.47、大阪市北部17.00、堺市 14.55、三島14.54で、大阪市東部と大阪市南部を除いて注意報レベルを超えている状態が続いている。

新型コロナウイルス感染症は15%減の471例で、定点あたり報告数は1.54であった。大阪市北部2.53、堺市2.00、大阪市南部1.85、北 河内1.76、南河内1.58である。



#### 表1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向(2023年 第44週10月30日~11月5日)

第44週 の順位	第43週 の順位	感染症	2023年		2022年	2023年第44週の			
			第44週の	前週比	第44週の	年齢別			
			定点あたり	増減	定点あたり	患者発生数			
			報告数		報告数	最大割合値			
1	3	感染性胃腸炎	3.41	1%減	2.15	1歳_14%			
2	2	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3.37	10%減	0.54	10-14歳_13%			
3	1	咽頭結膜熱	3.31	14%減	0.07	3歳_20%			
4	4	流行性角結膜炎	0.62	14%減	0.10	20歳以上_59%			
5	5	手足口病	0.38	23%減	1.24	1歳_39%			
参考		インフルエンザ	13.27	5%增	0.36	10-14歳_27%			
		(インフルエンザ定点報告疾患)		3704日	0.30				
参考		新型コロナウイルス感染症	1.54	15%減	_	10-19歳 14%			
		(COVID-19定点報告疾患)	1.54	1370/0	_	10-19/成_1470			

新型コロナウイルス感染症とインフルエンザは、定点種別が異なるため、参考として記載しています。

新型コロナウイルス感染症の詳細はリンク先の『令和2年11月2日以降(大阪府)』の情報をご覧ください。

新型コロナウイルス感染症の詳細はリンク先の『新型コロナウイルス感染症(大阪府感染症情報センター)』の情報をご覧ください。

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことか ら、本文には詳細に記載していません。 2023/24年シーズンのインフルエンザ集計は第36週から開始しました。

## 第44调のコメント

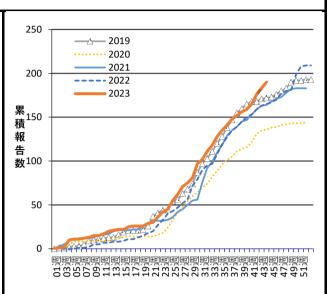
〜腸管出血性大腸菌感染症〜 食肉・食材の十分な加熱処理、調理器具の十分な洗浄や手洗いの励行などにより、食中毒や感染拡大の予防を徹底することが重要です

## 全数把握感染症

## 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の原因菌は、ベロ毒素を産生する大腸菌で、代表的なものはO(オー)157、O26、O111がある。汚染飲食物を介する経口感染がほとんどで、出血を伴う腸炎や溶血性尿毒症症候群を起こす場合がある。3-5日の潜伏期をおいて、激しい腹痛を伴う頻回の水様便の後に、血便となる(出血性大腸炎)。発熱は軽度で、多くは37℃台である。有症者の6-7%では、発症数日後から2週間以内に、重症の溶血性尿毒症症候群を発症する。初夏~初秋は腸管出血性大腸菌感染症の報告が増加することから、十分注意が必要です。

<u>腸管出血性大腸菌(大阪府感染症情報センター)</u> 腸管出血性大腸菌感染症とは(国立感染症研究所)



## 表 2. 大阪府全数報告数(2023年 第44週10月30日~11月5日)

注意: この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります (報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ> 【週報】> 全数把握疾患 をご覧ください。)

	疾患名 ( ) 内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	二島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	報告数
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	7		2		1				4	190
4 類感染症	デング熱	2							1	1	15
4 投怨未准	レジオネラ症(肺炎型)	1				1					120
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	2		1	1						144
5 類感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	2	1							1	122
5 規燃業症	水痘(入院例)	1								1	25
	梅毒	8	1							7	1,690
結核	結核 <b>新登録患者数:73名</b> (内 肺·喀痰塗抹陽性 22名)										
(2023年9月分)	(2023年9月分) (府内累積報告数 822名、内 肺・喀痰塗抹陽性 283名)										283名)

(2023年11月7日 集計分)